

いま づ えー い せき
今津A遺跡1

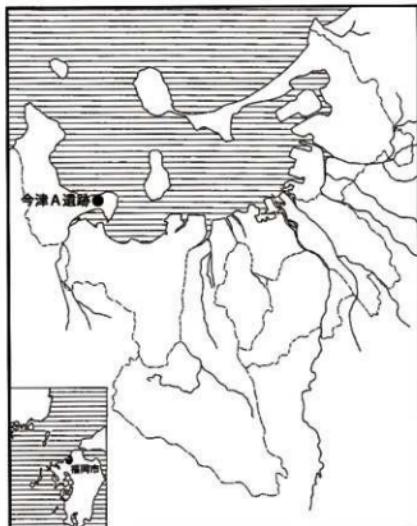
—今津A遺跡第1次調査報告—

2019

福岡市教育委員会

IMAZU ISEKI
今津A遺跡1

—今津A遺跡第1次調査報告—



遺跡略号 IMA-1
調査番号 1728

2019

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面する港湾都市福岡は、太古の昔から大陸との交流の窓口として栄え、それを示す多数の埋蔵文化財が残っています。しかしそれらの埋蔵文化財は、開発の進展に伴って、その一部が失われつつあるのも事実です。福岡市では工事に先立って発掘調査を実施し、後世にその成果と意義を伝えるべく、努めて参りました。

本書は社会福祉施設建設に伴い、福岡市西区今津地内で実施した今津A遺跡第1次調査の成果を収めたものです。今回の調査では、円形および方形の竪穴建物を主体とする弥生時代中期～後期の集落跡が確認されました。今回は今津A遺跡内における初めての調査であり、遺跡の性格・様子が明らかになったことは、大変貴重な成果といえます。

本書を通じて調査成果がより多くの方に共有され、活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、社会福祉法人 野の花学園様をはじめとする関係者の方々にはご理解と多大なご協力を賜りました。心より感謝申し上げる次第です。

平成31年3月25日

福岡市教育委員会

教育長 星子 明夫

例　言

1. 本書は社会福祉施設建設に伴い、福岡市西区今津4820-2地内において実施した今津A遺跡第1次調査の報告である。
2. 検出遺構はピットとそれ以外のものとに分け、それぞれ通し番号とし、以下の略号を付した。
ピット S P 竪穴建物 S C 挖立柱建物 S B 上坑 S K
3. 遺構の実測は木下博文が行った。
4. 遺物の実測は木下博文が行った。
5. 遺構・遺物の写真撮影は木下博文が行った。
6. 製図は山崎賀代子が行った。
7. 本書で使用した方位は磁北で、真北より6°40' 西偏する。
8. 本書に関わる図面・写真・遺物は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される。
9. 本書の執筆・編集は木下博文が行った。

調査番号 1728	遺跡略号 IMA-1	分布地図番号 118
所在地 西区今津4820-2		調査面積 413m ²
調査期間 2017. 11. 6~2017. 12. 8		

本文目次

第1章 はじめに	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査体制	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 調査の記録	5
1 調査の概要	5
2 遺構と遺物	5
3まとめ	12
図版 1~5	

挿図目次

図1 遺跡の位置 (S=1/25000)	2
図2 調査地点位置図 (S=1/3000)	3
図3 調査区位置図 (S=1/1000)	3
図4 調査区平面図 (S=1/200)	4
図5 S C 01 および出土遺物実測図 (S=1/60、1/3)	6
図6 S C 02・03・04・06 および出土遺物実測図 (S=1/60、1/3)	7
図7 S C 11・12・13・14・15 および出土遺物実測図 (S=1/60、1/3)	8
図8 S K 07・08・10・16 および出土遺物実測図 (S=1/40、1/3、1/2)	9
図9 S B 17実測図 (S=1/60)	11
図10 S P出土遺物実測図 (S=1/3、1/2)	11

図版目次

図版1 全景(西から) 拡張部全景(西から)	
図版2 S C 01(南から) S C 02・09(北から) S C 03(西から) S C 04(南東から) S C 06(南から) S C 11(北西から) S C 12(南から) S C 12・調査区東壁土層 断面(西から)	
図版3 S C 13(東から) S C 14(南西から) S C 15(西から) S C 07(南から) S K 10(南東から) S K 16(東から) S B 17(南から)	
図版4 出土遺物1	
図版5 出土遺物2	

第1章 はじめに

1 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、平成28（2016）年12月14日付で、社会福祉法人野の花学園より福岡市西区今津4820-2地内における埋蔵文化財の有無について照会を受けた（事前審査番号28-2-803）。申請地は今津A遺跡の範囲内であることから、平成29年5月9日、同年7月18日に試掘調査を実施し、現地表面下100cmで遺構を確認した。この結果をもとに遺跡の保存について協議したが、今回は社会福祉施設建設で、その基礎工事内容は埋蔵文化財への影響を避けられないことから、発掘調査を実施することとなった。調査対象範囲は、建物建設範囲の内、試掘調査の所見に基づき、埋蔵文化財が存在すると判断された南東隅部の約400m²に設定し、契約している。

本調査は、平成29（2017）年11月6日にバックホウによる表土剥ぎより着手した。11月7日より人力による掘り下げを開始、順次遺構の検出・精査・実測を進め、平成29（2017）年12月8日に終了した。

2 調査体制

発掘調査（平成29年度）

調査委託 社会福祉法人野の花学園

調査主体 経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課

調査統括 埋蔵文化財課長 常松 幹雄

調査第1係長 吉武 学

調査庶務 文化財保護課管理調整係 松尾 智仁

調査担当 事前審査 事前審査係長 本田 浩二郎

主任文化財主事 池田 祐司

係員 清金 良太

本調査 調査第1係 木下 博文

整理・報告（平成30年度） 文化財部は文化財活用部に名称変更

統括 埋蔵文化財課長 大庭 康時

調査第1係長 吉武 学

庶務 文化財活用課管理調整係 松尾 智仁

整理・報告 調査第1係 木下博文

第2章 遺跡の立地と環境

今回の発掘調査対象となった今津A遺跡を含む今津地区は、福岡市西部、博多湾西岸に位置する。

糸島半島丘陵部の東端から長浜海岸が博多湾内に向かって東に延び、標高177mの毘沙門山につながる。集落は毘沙門山山西山麓に広がる。瑞梅寺川の河口部北岸に当たり、今山を擁する南岸の今宿地区とともに、かつては入海をなし、良港であった。

今津A遺跡の東には日本に庵濟宗をもたらした栄西が滞在した誓願寺があり、中国五代の呉越國から搬

入された銭弘倅の八万四千塔が伝えられている。遺跡の南西で発見されたという今津古墓では青磁碗など中国産磁器が出土している。1281年の弘安の役に際しては遺跡の北側の長浜海岸に石塁が築かれ、蒙古・高麗の侵攻を防いだ。

以上のように中世の遺跡が知られるが、近隣に視野を広げれば縄文・弥生・古墳・古代の遺跡が濃密に分布している。主な遺跡を時代順にあげれば、糸島半島東端の丘陵部に当たる大原D遺跡では縄文時代草創期の焼失住居跡が検出されている。今津対岸の今山は玄武岩の産出地であり、弥生時代には磨製石斧の素材として利用され、北部九州に広く流通した。今宿の南側一帯の山麓には多数の古墳が築かれ、中でも鶴崎古墳をはじめとする首長墳群が今宿古墳群として国史跡に指定されている。現在九州大学が移転した糸島半島丘陵部の元岡・桑原遺跡群には、古代に大規模な製鉄炉群が築かれた。

今津A遺跡の南東の今津貝塚は、弥生時代の貝塚として知られる。また東方の丘陵部には古墳群も存在している。しかしそれらに関わる集落の様相はこれまでの調査例がなく、よく分かっていない。

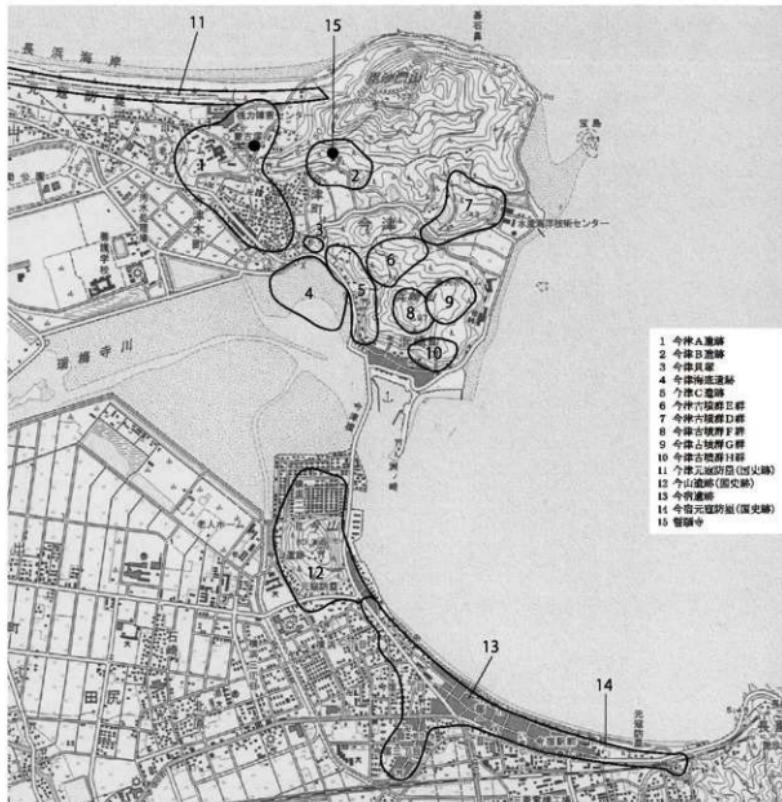


図1 遺跡の位置 (S = 1 / 25000)

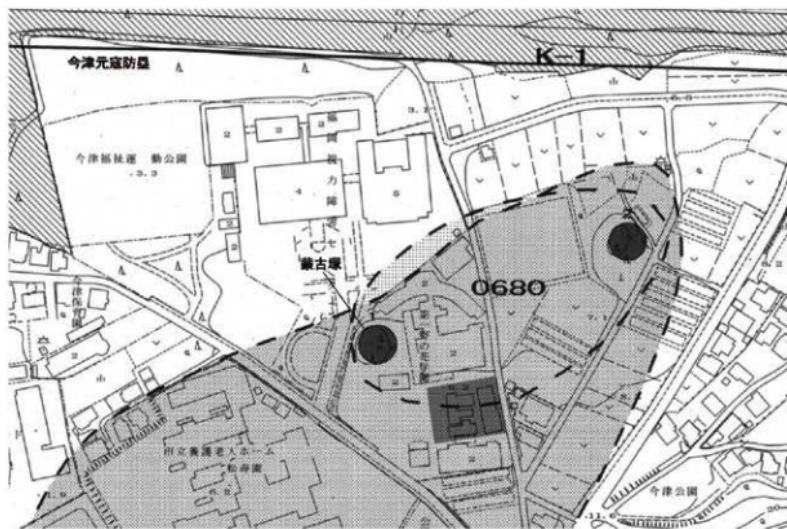


図2 調査地点位置図 ($S = 1/3000$)

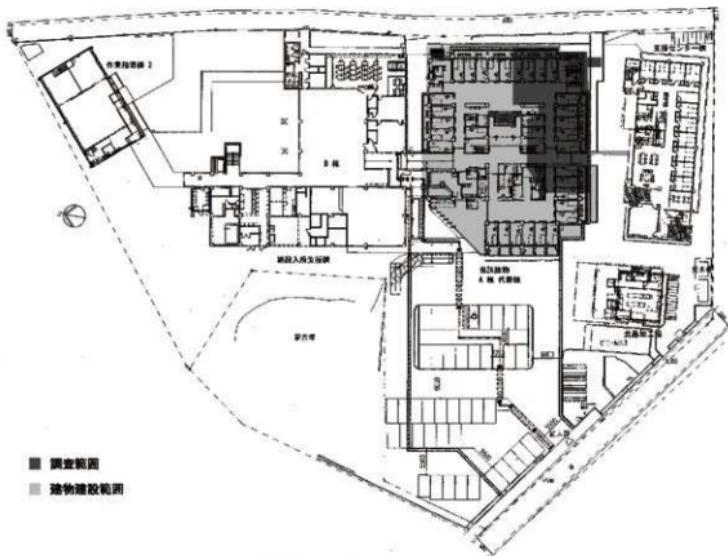


図3 調査区位置図 ($S = 1/1000$)

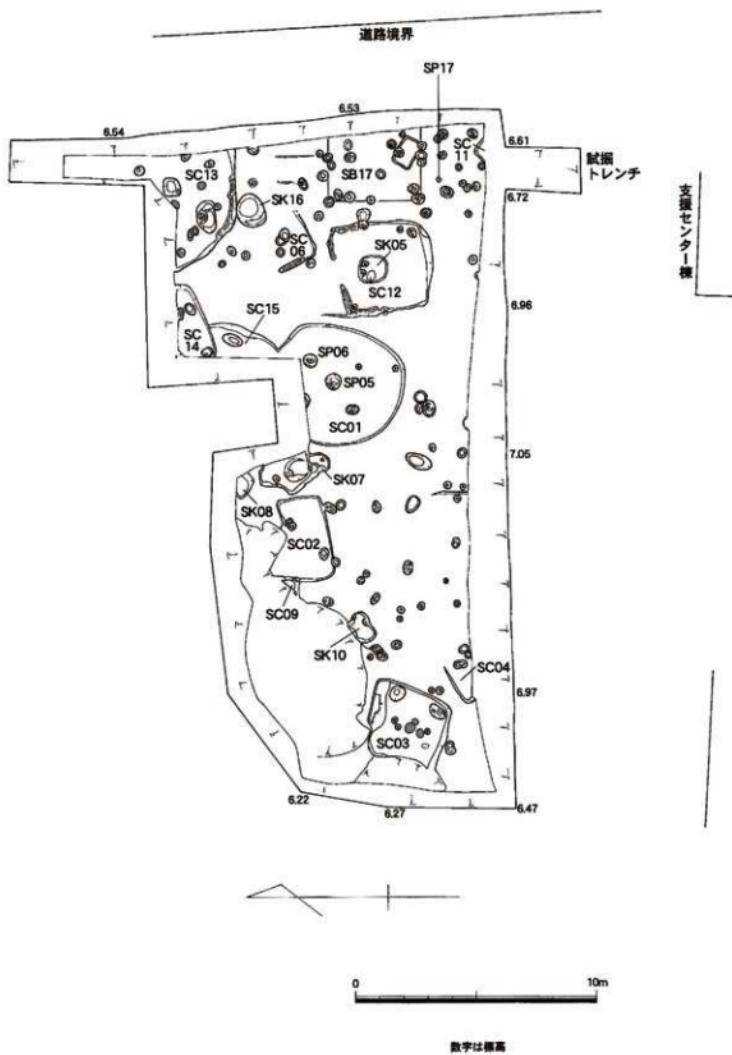


図4 調査区平面図 ($S = 1/200$)

第3章 調査の記録

1 調査の概要

本調査地点は野の花学園敷地内の南半東寄りに位置し、北西に蒙古塚がある。地形は敷地の南東側が高台になっており、毘沙門山が眼前に見える。現地表面の標高は6.5~7.1mで、遺構は現地表下100cmの橙褐色土上面で検出しており、この土は丘陵地の土である。検出遺構は弥生時代中期後半の円形竪穴建物2棟、同後期~終末の方形竪穴建物5棟、古墳時代後期の土坑1、小ピット40以上である。出土遺物は弥生土器、須恵器などコンテナ3箱分で、石匙1点が小ピットから出土している。

遺構はピットとそれ以外に分け、それぞれ通し番号とした。

2 遺構と遺物

竪穴建物

SC01(図5、図版2)

調査区北部中央で検出した。既存井戸養生のため完掘できていない。東西4.94m×南北5.2m以上のやや不整の円形で、深さ0.14~0.21mである。4本柱で中央に浅いピットか土坑が1基ある。南東部のピットのみが小さく、柱痕跡のみを掘った可能性もあるが、検出の結果彌生時代後半に属する。

出土遺物(図5、図版4)

1~4は弥生土器の甕である。1は橙褐色、2は外面が橙色、内面が黒褐色、3は赤褐色、4は内外面が灰褐色、断面が褐色である。1・2は外面にハケ目を施す。

SC02(図6、図版2)

東西3.4m、南北2.64m以上の方形で、深さ8cmである。大きくかく乱を受け、削平のためか残りも浅く、北側はプランが不明確である。SC09に切られる。床面上に主柱穴になるようなピットは認められなかった。

出土遺物(図6、図版4)

5・6は高杯である。5は復元口径18.4cm、残存高5.4cm、赤褐色で、杯部の底面外部にハケ目を施す。6は復元口径14.4cm、器高12.0cm、復元底径13.2cmで、黄褐色である。

SC03(図6、図版2)

調査区西端で検出した。東西3.2m、南北3.3mの方形で、深さ0.28mである。西端はかく乱を受けている。中央やや南寄りに3ヶ所床面が円形に焼けており、炉とみられる。ピットは東の壁際、隅部に大きなものが2ヶ所、中央の対になるような位置に小さなものが2ヶ所認められる。西側については、かく乱の底面が建物の床面とほぼ同じ高さであり、深い柱を掘り込んでいれば残存しているはずであるが、認められなかった。上屋構造は東側半分を覆うような小屋掛けのものか。

出土遺物(図6、図版4)

7は手捏土器の鉢である。橙色を呈す。8は弥生土器の甕である。赤褐色を呈す。9は黒曜石製錐か。右半部が欠失している。縦3cm、横1.3cm、厚さ0.3cm、重さ1.5gである。10は黒曜石製錐か。上半部が欠失している。縦2.7cm、横2.2cm、厚さ0.5cm、重さ3.0gである。

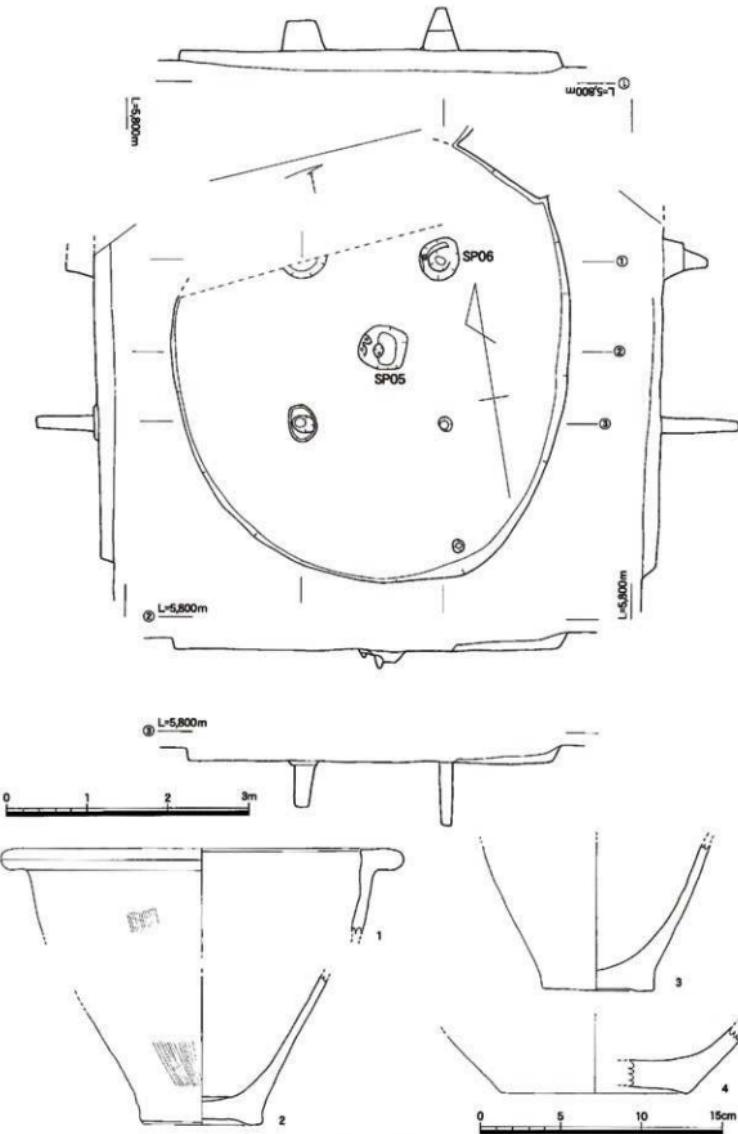


図5 S C O 1 および出土遺物実測図 (S = 1 / 60, 1 / 3)

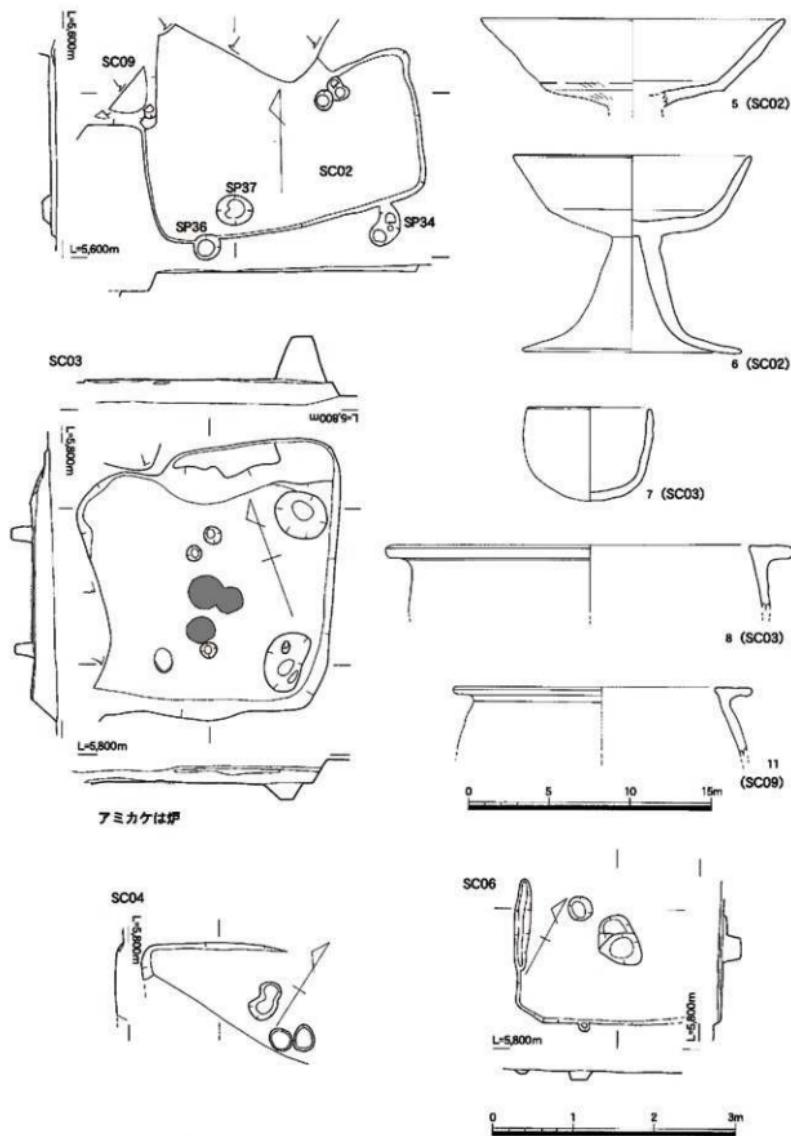


図6 SC02・03・04・06および出土遺物実測図 ($S = 1/60, 1/3$)

SC04（図6、図版2）

調査区西端、SC03の南東で検出した。東西1.7m以上、深さ8cmで、削平のためか北西隅部しか残存していない。

SC06（図6、図版2）

SC01の東側で検出した。方形の隅部が確認できたが、削平のためか全形は検出できなかった。残存は東西1.9m、南北1.75m、西壁沿いの一部に深さ4~10cmの溝を設けている。

SC09（図6、図版2）

SC02の西側で検出した。方形竪穴建物の隅部とみられる。SC02に切られる。深さ29cmである。

出土遺物（図6、図版4）

11は弥生土器の甕である。橙色を呈す。

SC11（図7、図版2）

調査区南東隅で検出した。方形竪穴建物の隅部とみられる。深さ12cmである。

SC12（図7、図版2・3）

調査区東半中央で検出した。東西3.9m、南北4.1mの方形で、深さ0.27mである。北半の壁沿いに溝をめぐらすが、北辺中央部は途切れしており、こちらが出入口の可能性がある。床面上に主柱穴になりそうなピットがなく、東西辺の中央にピットを各1ヶ所掘る。

SC13（図7、図版3）

調査区北東隅で検出した。復元径6.4m、深さ0.12mである。一部周壁溝がめぐっている。炉が2ヶ所ある。

出土遺物（図7、図版4）

12・13は弥生土器の甕である。12は内外面が橙色、断面が黒褐色、13は浅黄橙色を呈す。

SC14（図7、図版3）

東西3.3m、深さ0.13cmで、SC15を切る。プランは方形とみられる。

SC15（図7、図版3）

深さ15cmで、SC01・14に切られる。既存井戸養生のため完掘できていない。円形か。

出土遺物（図7、図版5）

14・15は弥生土器の甕である。16は砥石である。縦10.1cm、横8.7cm、厚さ最大3.8cm、最小2.5cm、重さ390.5gである。

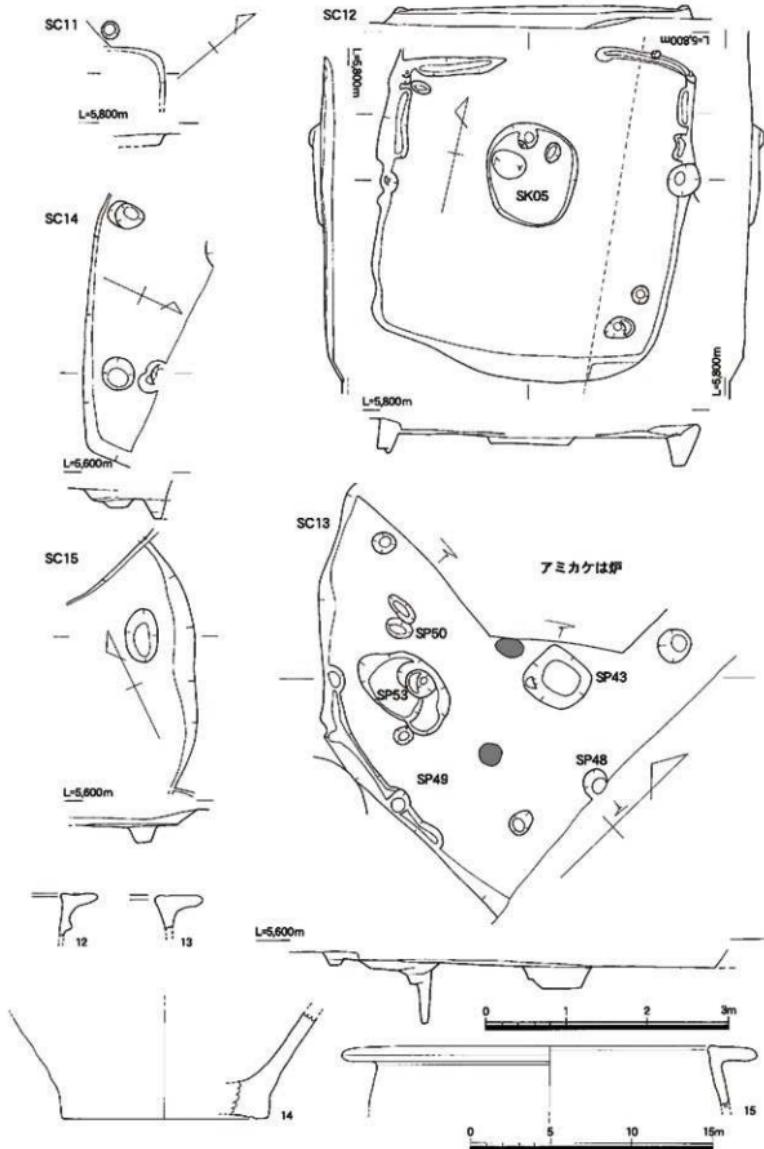


図7 SC11・12・13・14・15および出土遺物実測図 (S=1/60, 1/3)

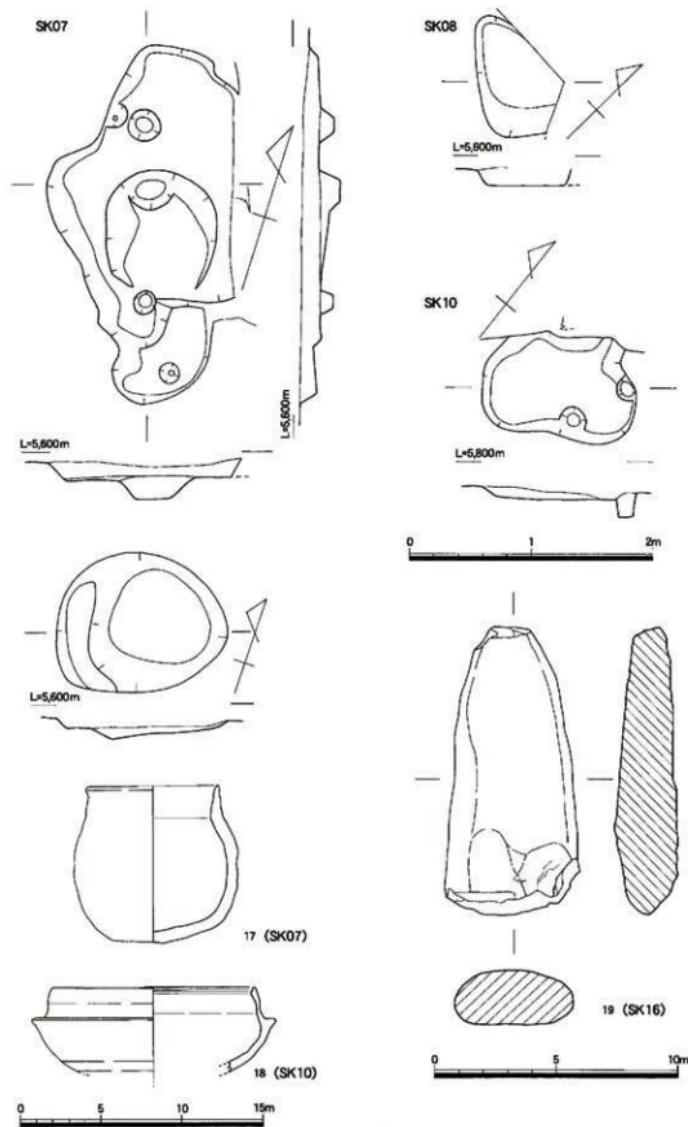


図8 SK07・08・10・16および出土遺物実測図 (S = 1/40, 1/3, 1/2)

土坑

SK07 (図8、図版3)

調査区中央北端、S C O 2の東側で検出した。南北2.95m、東西1.5m以上の不整楕円形で、深さは約0.1mである。既存井戸養生のため、東側は検出していない。

出土遺物 (図7、図版5)

16は弥生土器の鉢である。口径7.8cm、器高9.6cm、手捏で橙褐色を呈す。

SK08 (図8、図版3)

S K 0 7の北側で検出した。東西1.0m、南北0.6m以上の方形で、深さ5~15cmである。

SK10 (図8、図版3)

調査区北西部で検出した。東西1.3m、南北0.8mの不整楕円形で、深さ11cmである。出土した須恵器杯身の型式から、古墳時代後期前半とみられる。

出土遺物 (図8、図版5)

17は須恵器の杯身である。復元口径12.2cm、残存高5.2cmで、立ち上がり部があまり内傾しておらず、口縁端部内面を段状に仕上げている。

SK16 (図8、図版3)

調査区北東部で検出した。東西1.3m、南北1.15mの楕円形で、深さ14cmである。

出土遺物 (図8、図版5)

19は磨製石斧である。長さ11.7cm、幅5.4cm、厚さ2.6cm、重さ250.0gである。

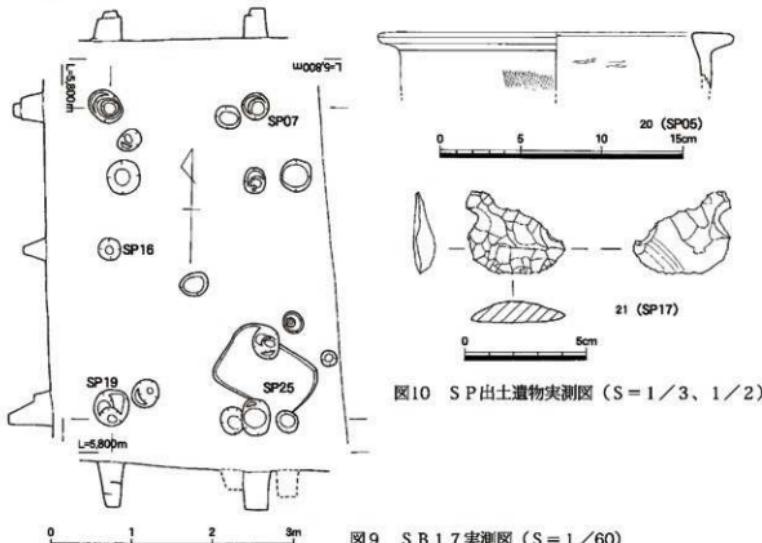


図9 SB17実測図 (S = 1/60)

掘立柱建物

SB17（図9、図版3）

調査区東部で検出した。東西2間以上×南北2間の東西方向の建物で、調査区外に伸びるとみられる。柱間は1.7~1.8m、ピットの深さは0.3~0.55mである。

S P出土遺物（図10、図版5）

20は弥生土器の壺である。S P O 5出土。21は石匙である。横幅4.0cm、縦長3.3cm、厚さ0.9cm、重さ9.0gである。S P 1 7出土。

3 まとめ

最後に今回の調査成果について、簡略ながら時代ごとに要点をまとめ、今後の課題・問題点をあげておきたい。

今回の調査で主体となる遺構の時期は弥生時代中期～後期で、円形および方形の竪穴住居跡がまとまって検出された。検出した遺構面は砂層ではなく、毘沙門山から続く丘陵地の土である赤褐色土層である。過去に調査区の北・西で実施された試掘調査では砂層で遺構なしとの結果が出ており、集落は東・南の丘陵側に広がるのであろう。

調査区の北西に蒙古塚と呼称される古墳が存在するが、調査範囲が建物範囲の一部であったため、地形上の関係を明らかにできなかった。また検出遺構も占墳時代の須恵器を含むものは少なく、占墳時代の様相については、今後の調査に俟つかない。

また遺物のみで遺構は確認していないが、縄文時代の様相についても、今後注意すべきである。小ピットから混入とみられるが、石匙が出土している。弥生時代の住居跡から出土した黒曜石製鐵（図版4-9）も形状が魚形鐵に似ている。魚形鐵は主に近畿地方で出土し、他地域には少ない資料で、ネガティブな押型文土器の時期、つまり縄文時代早期前葉に相当するとされる（1）。魚形鐵として間違いがなければ、貴重な資料となる。毘沙門山麓付近は糸島半島丘陵部に住んだ縄文人集団の活動範囲であった可能性も考えられる。

今回の発掘調査は、今津A遺跡内では初の事例である。未解明な部分も多いが、周辺も含めた遺跡の内容を具体的に明らかにする重要な機会となった。

注

（1）上峯萬史2018『縄文石器 その視角と方法』京都大学学術出版会 130~131ページ



調査区全景（西から）



拡張部全景（西から）

図版 2



SC01 (南から)



SC02・09 (北から)



SC03 (西から)



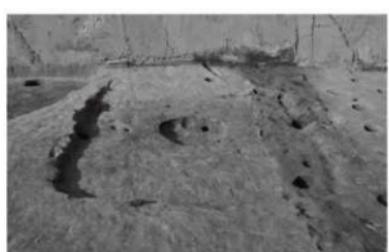
SC04 (南東から)



SC06 (南から)



SC11 (北西から)



SC12 (南から)



SC12・調査区東壁土層断面 (西から)

図版 3



SC13 (東から)



SC14 (南西から)



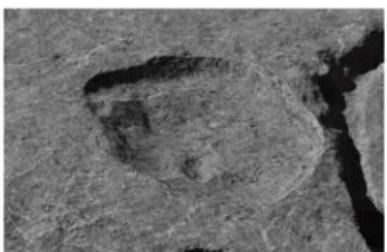
SC15 (西から)



SK07+08 (南から)



SK10 (南東から)

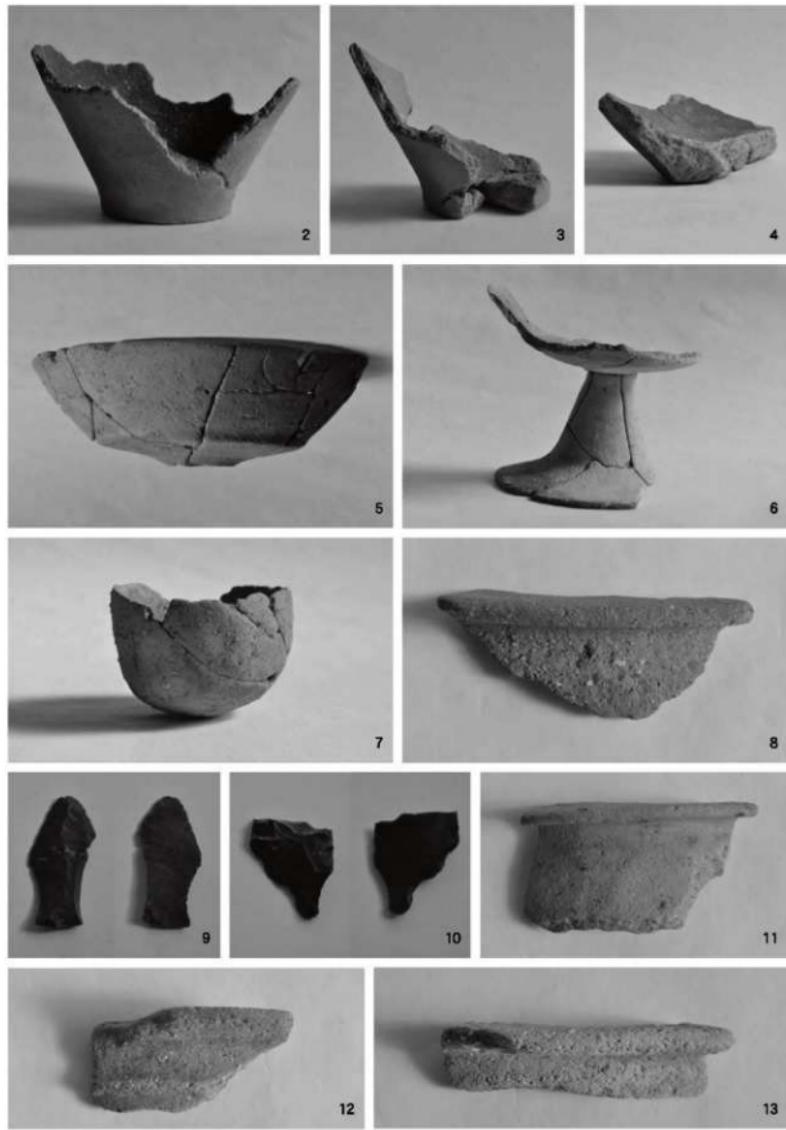


SK16 (東から)

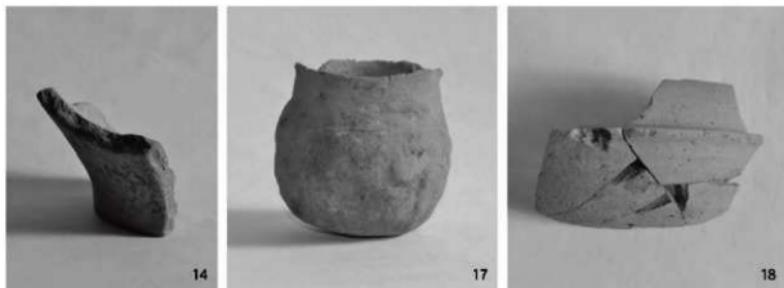


SB17 (南から)

図版 4



出土遺物 1



14

17

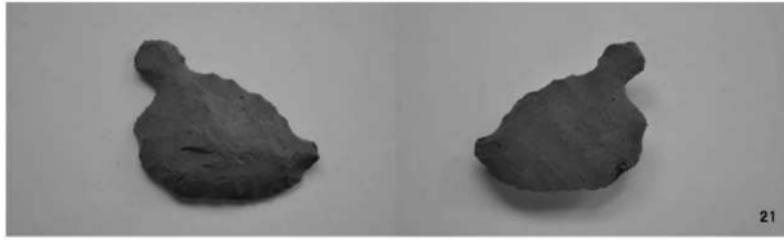
18



16



19



21

出土遺物 2

報告書抄録

ふりがな	いまづえーいせき							
書名	今津A遺跡1							
副書名	今津A遺跡第1次調査報告							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第1358集							
編著者名	木下博文							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1-8-1							
発行年月日	2019年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
いまづえーいせき 今津A遺跡第1次	ふくおかしにしくいまづ 福岡市西区今津 4820-2	40132	0675	130度 15分 31秒	33度 36分 27秒	2017.11.06 ～ 2017.12.08	413	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
今津A遺跡	集落跡	弥生～中世	竪穴建物、土坑、 ピット	弥生土器、須恵器、石器				
要約	今津A遺跡は福岡市西部、今津元寇防墓の南側に位置する。東側の里沙門山からのびる台地上に立地する。調査対象地は社会福祉法人野の花学園の中央部に当たり、北西に蒙古塚がある。遺構は現地表下約100cmの橙色粘土層上面で検出した。検出遺構は弥生時代中期～後期の円形および方形竪穴建物、古墳時代後期の土坑、小ピットである。出土遺物は弥生土器、須恵器のほか、石器がある。							

今津A遺跡1

—今津A遺跡第1次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1358集

2019(平成31)年3月25日

発行 福岡市教育委員会

〒810-8621 福岡市中央区天神1-8-1

印刷 株式会社 ハザマ印刷

〒815-0081 福岡市南区那の川1-20-23